

翔
TOBU

NO. 58

1986年8月

百万石蝶談会

目 次

金子二久：そこには、ただ風の吹いているだけ	2
松井正人：金沢市周辺のフジミドリシジミの新産地	5
：短 報 4	5
井村正行：石川県のカミキリムシ科(その3)	6
松井正人：白峰村でギフチョウの発生地を確認	9
松井正人：室戸岬のヤクシマルリシジミ	10
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	12
編 集 部：例会の記録 (1986年6月6日の記録)	14

そこには、ただ風の吹いているだけ

金子 二 久

人生ここまで来ると楽しい事、悲しい事がたくさんあった。楽しい事の一つは虫を並べる趣味を持った事。あの様にすばらしい色、型の結晶をいつでも見る事が出来るのは大きな喜びである。悲しいことの一つは体力の衰えの結果として高い山へ登れなくなった事、あの高山の頂上付近に飛んでいるタカネヒカゲを追いかけられなくなった事である。

タカネヒカゲ；それは十種いると言う我国の高山蝶の中でも、否、日本産の蝶の中でも三本の指に入るいい奴である。あの横長の翅型、たった二本の線で描ける最高のものだと思う。(それに匹敵するのは花札の坊主の二十文の札ぐらいだと思う。あの二つの円弧の表している物の大きい事、驚嘆にあたいする。)

そいつとは八ヶ岳、北アルプス、大雪と付き合ってきた。八ヶ岳ではハイ松の上を活発に飛び廻っていたし、北アルプスでは砂礫地を低く右に左に飛んでいた。大雪ではハイ松の群落のそばの苔の上を短く飛んではとまり、あたりを見廻していた。

そのタカネヒカゲが加賀白山にいらしいと情報が漏れ聞こえてきたのは十年も前、東京で虫友達と話している時だった。“白山に新しいコヒョウモン、タカネヒカゲがいるって噂があるけど採れている？”と聞かれた。もちろん“まさか！”と否定した。でも一応調べてみるかと登った。(1978年7月29日)。天候は快晴無風、タカネヒカゲが飛ぶには絶好のコンディションだった。翠ヶ池の周り、大汝の頂上と成育していれば必ずいると思われる所を探した。何もいない。それらしい奴と言えば、ただ一頭、茶色の蝶がガレ場からハイ松の方へ飛んで行くのを見た。しかしその大きさ、飛びかたからヒメキマダラヒカゲと思われた。人の全く来ない大汝のてっぺんで一人腰をおろして、北の山並を望んでいると、白山を独り占めにしている様な贅沢な気分になり最高だった。

野中氏の字一色(ツーイーソー、雑誌名)がうちの郵便受けに入っていた事がきっかけとなり百万石蝶談会に入れてもらった。翔のバックナンバーを借りて読んでいて飛び上がったのは白山でタカネヒカゲを見たという報告が載っていたからである(翔4号2頁1976年、碓井徹：御手洗鉢1974.8:1、五葉坂1975.7.30)。次の日には嵯峨井氏に著者の現住所を聞き“タカネヒカゲである事は間違いありませんか、ヒメキマダラヒカゲがよく高山帯に上がって来ますが…”と質問状を出した。数日してお返事をいただいた。

・・・、小生が白山々頂上で目撃した2例は「タカネらしきもの」という表現が適切だと思っています。ご指摘のようにヒメキマダラの線は小生も疑いをもち(是定的に)続けていましたが、目撃した個体に眼状紋を見出せず、今でもタカネとヒメキマダラは五分五分の可能性と考えています。ただ、私自身「白山にはタカネはいない」という事は事前には知らず、目撃したいと思って目撃したのとは違う点で、この判断は冷静なものだと思っています。目撃例の信頼度というのは文章表現でいかようにも変化する

るので、書き手と読み手の印象にズレが生じますが、あえてその確実度を文章にすれば「タカネの生息の有無を知らずに見ればタカネに見え、タカネは生息していないという目で見ればヒメキマダラに見えたと思う」という事になります。不可解な事ばかり書きましたが私の2つの目撃例には絶対の自身は持っていません。・・・

1982-IX-6 (原文の通り)

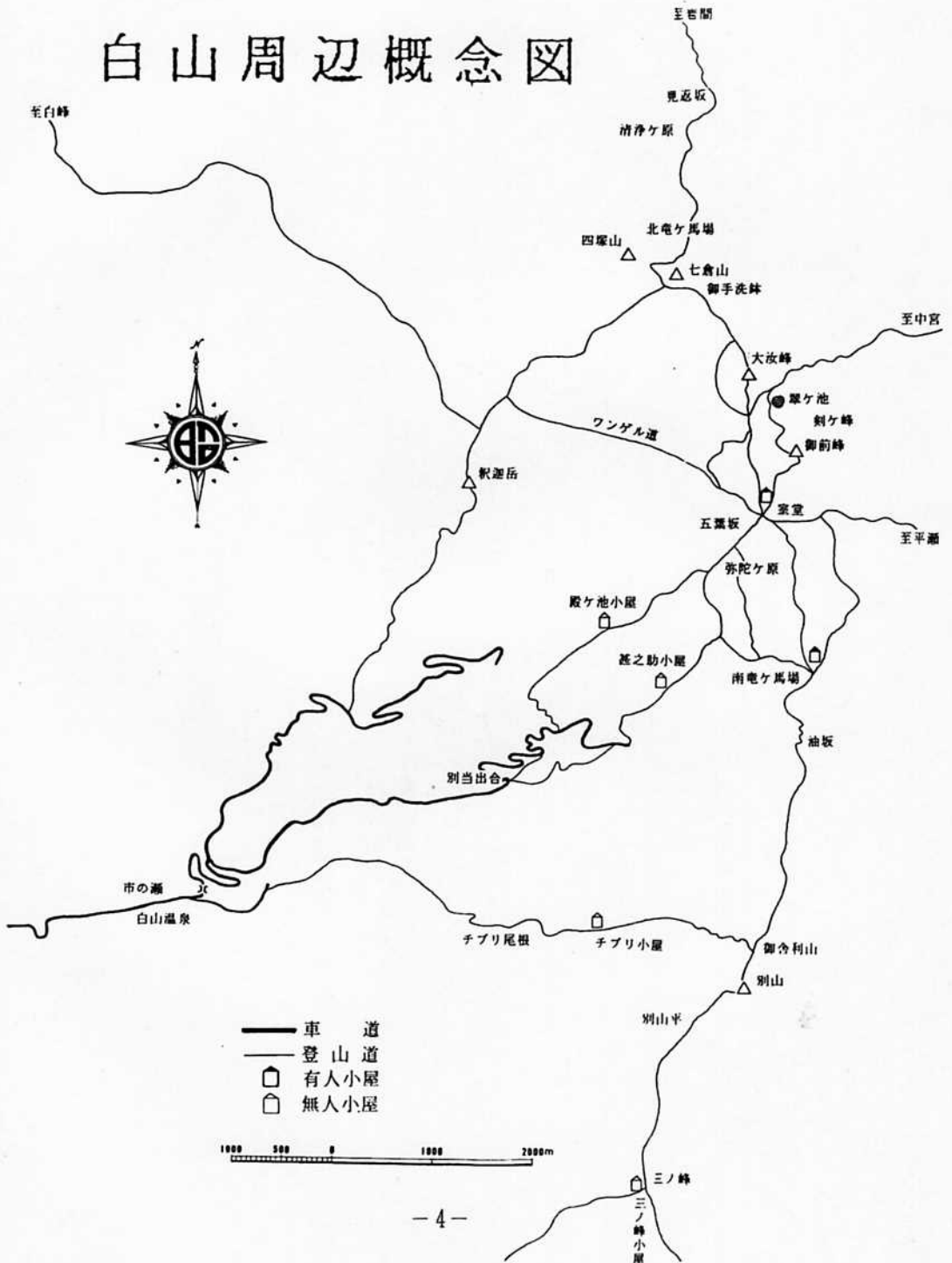
その記事にある二ヶ所に行ってみた(1983年8月1日)。御手洗鉢は大汝と七倉山の鞍部で風の強い、水の溜っている大きな岩のある所だった。晴。何も飛んで来ない。ほとんど午前中そこでポケッとしていた。先年ベニヒカゲを採りに登った三方崩山が眼の下に見え、その崩落がすごかった。午後は五葉坂の付近を調べた。小一時間も探していたが何も飛び出さなかった。

去年(1985年)の夏、松井氏が福井の連中が白山でタカネヒカゲを採ったらしいと噂を聞き込んできた。字一色の名簿で福井の会員を探し電話してみた。下野谷氏がそれらしい昔の標本を持っているが、近年採れたとは聞いていないと二人とも答えた。東京の木曜社にも電話を入れたが藤岡大図鑑の標本しか知らないと言う。クモマベニヒカゲを探しに松井氏に聞いたワンゲル道に行ってみた(1985年7月30日)。車で市の瀬まで入り、夜道を一人登った。別当出合まで車が入った頃は何組かが登り、懐中電燈が下の方にチラチラ見えたものだが、車が入るのが市の瀬までとなった為か、その夜登っているのは僕一人の様だった。満天の星の下、腰を下ろしてライトを消し、休んでいると遠くにトラツグミの音が聞こえるのみで、(オーバーに聞こえるかも知れないが)小さな一人と宇宙とが相対している様な厳粛な気分になるのだった。空が白らむ頃、甚之助小屋を過ぎ、太陽を見ないうちに室堂に着いた。草露に濡れて教わったコースに入る。登山道なら"お庭"とか"日本庭園"とか名のつきそうな景色の良い所を通って行く。ポイントは笹が茂り道も分からない様になっていた。Erebriaは二頭見たが飛び方からベニヒカゲの様だった。十二時半頃までねばっていたがあきらめ、砂礫地を通って帰ってきた。眼は蝶を探している。ヒメキマダラヒカゲらしいのは四、五頭見た。唯一回、それより一周り小型の淡い茶色の蝶が二頭もつれあう様にハイ松の方へ上がって行くのを見た。白山にタカネヒカゲが生息するとしたらアレだろうと思う。しかし、飛び方はタカネヒカゲとは思えなかった。その日は南竜に泊まり、翌日ふて腐れて、ベニヒカゲでもと考えて別山へ向かった。その日も晴。朝食もとらずに出たので油坂の上で陽にあたる。まだ早いのかベニも飛ばない。頂上の手前のコブの草つきで道の側に焦げ茶色の蝶がバタバタしている。良く見るとクモマベニヒカゲ、羽化して間もないのか羽のまだ硬化していない個体だった。別山頂上からは富士山も見え、山登りには最高だった。そこは北アルプスの北ノ俣岳の雰囲気タカネヒカゲが飛び出しても何の不思議もなかった。しかし、そんなのは一つも見られず、時折ヒメキマダラヒカゲが上がって来るのみだった。チブリ尾根を降り、小屋の下でベニヒカゲを数頭(♂)見たのみだった。あとは下りに下ってブナの林を楽しみながら

河原に出ヨレヨレになって市の瀬に着いた。

三回の調査ではあるが、発生之最盛期に行っている事もあり又発生している可能性のある所は一応眼を通してあるので、まず白山にはタカネヒカゲは生息していないのではないかと考える。しかし、高山蝶は往々にして局地的に生息している事があるので断言は出来ない。

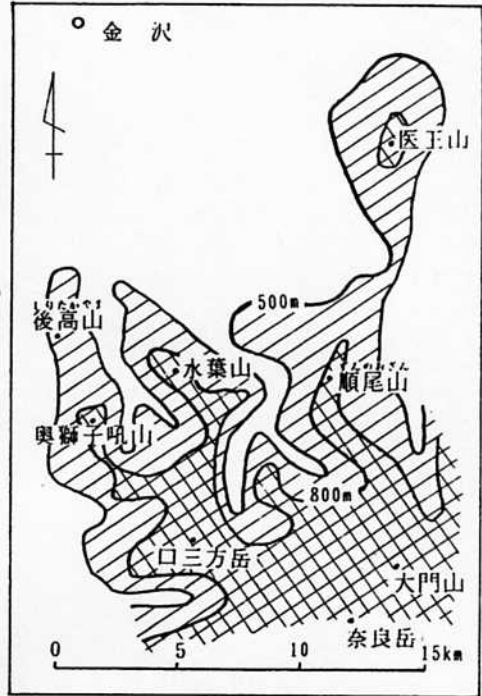
白山周辺概念図



金沢市周辺のフジミドリシジミの新産地

松井 正人

金沢市周辺に於けるフジミドリシジミの記録地としては、これまで医王山(1)しか知られていなかった。医王山に於けるフジミドリの発生量は少なく、その為いままでに採集された卵は数える程も無かった。ところが1984年はゼフィルス類の当たり年で、医王山においても1シーズン中に40卵という大量採卵がなされた。金沢市周辺のフジミドリは分布密度が薄いので、この時期を逃しては新産地は見付からないと思ひ、1984年秋から1985年春にかけてフジミドリの採卵による分布調査を行った。その結果3箇所の新産地を確認した。この調査を行うに当たり、調査に同行いただいた、中西重雄、野中勝の各氏に厚くお礼申し上げる。



1) 金沢市順尾山(標高800m~840m)

細長い尾根部分にしかブナは見られず、ミズナラ林にブナがパラパラと交ざるといった程度で、ブナの純林は見られなかった。順尾山林道終点付近のスギ植林地(スギは1m以下)内にポツポツと残されたブナからも2卵採集した。

1984年12月5日 金沢市順尾山 18卵 ブナ 松井正人

2) 金沢市水葉山(標高800~900m)

尾根部分に小規模なブナ林が3箇所程見られたものの、大木はほとんど無かった。尾根から少し下がった季節風の強く当たらない大木より採集した。

1985年1月12日 金沢市水葉山 9卵 ブナ 松井正人

3) 金沢市奥獅子吼山(標高900m)

後高山より尾根づたいに歩いたが、奥獅子吼山に至るまでブナは見られなかった。ここのブナは太くなかったが、広い尾根上にかなり広く有るように思われた。1985年1月27日 金沢市奥獅子吼山 5卵 ブナ 中西、野中、松井

参考文献 (1) 嵯峨井淳郎(1973) とっくりばち 24、25合併号 p.3

短 報 4

★ヒラタクワガタ	1986年7月12日	金沢市大場神社	3♂1♀	樹液	田中秀夫
	1986年7月12日	金沢市俵	1♂	燈火	田中秀夫
	1986年7月14日	金沢市犀川河川敷	1♂	樹液	田中秀夫
★アカアシクワガタ	1986年7月上旬	金沢市芝原	1♂	燈火	中西 誠

石川県のカミキリムシ科(その3)

井村正行

ハナカミキリ亜科 Lepturinae

45. チビハナカミキリ Grammoptera chalybeella BATES

白山山麓のブナ帯に分布し、5月末～7月に各種花より採集される。個体数はやや少ない。

1981年 5月31日	1♂	白山釈迦林道	井村正行
1981年 6月22日	1♀	白山釈迦林道	井村正行

46. ヘリウスハナカミキリ Pyrrhona laeticolor BATES

ブナ帯の標高500m～1000m位の所で、5月下旬～6月にカエデ、ミズキ、サワフタギなどの花より採集される。個体数はあまり多くない。サワフタギの枯枝より羽化。越冬態は蛹または幼虫で、幼生期は2年と思われる。白山釈迦林道以外の地では稀。

1957年 6月17日	1♂	金沢市犀川二又	松枝 章
1981年 4月22日	1♀(羽化)	白山釈迦林道	井村正行

47. ヤマトキモンハナカミキリ Judolia japonica TAMANUKI

白山山麓の大杉谷のブナ帯下部において、6月～7月上旬に採集された雌3例を知るのみである。クリの花と広葉樹の伐採木上、及び伐採地を低く飛翔中のものが採集されている。

1980年 6月29日	1♀	白山大杉谷林道	井村正行
1981年 7月 5日	1♀	白山大杉谷林道	井村正行

48. マルガタハナカミキリ Judolia cometes BATEA

白山山麓のブナ帯～亜高山帯で、7月～8月にノリウツギ、シシウド等の花より採集される。個体数は比較的少ない。

1980年 8月10日	1♂	白山大杉谷林道	井村正行
1986年 7月27日	1ex	尾口村一里野	松井正人

49. ヌバタマハナカミキリ Judolidia bangi PIC

白山のブナ帯に分布し、ノリウツギの花やブナの立枯の付近を低く飛翔中のものが採集されている。7月～8月に採集されているが個体数は大変少ない。

1974年 8月11日	1♀	白山釈迦林道	入場 登
1981年 7月26日	1♀	白山大杉谷林道	井村正行

50. チャボハナカミキリ Bseudallosterna misella BATES

低山帯～ブナ帯まで広く分布し、6月～7月にショウマ類の花に好んで集まる。個体数も多い。

1979年 7月 8日	1♀	白山釈迦林道	井村正行
1980年 6月29日	1♂	白山大杉谷林道	井村正行

51. ミヤマルリハナカミキリ Kanekoa azumensis MATSUSHITA et TAMANUKI
 白山ブナ帯において5月下旬～6月にカエデ、ミズキの花より採集される。
 個体数は少ない。
 1981年 6月 7日 1ex 吉野谷村中宮蛇谷 野中 勝
 1981年 5月31日 1♂1♀ 白山大杉谷林道 井村正行
52. クロルリハナカミキリ Anoploderomorpha monticola NAKANE
 白山のブナ帯～亜高山帯に分布し、6月～7月に各種花より採集される。
 1979年 6月17日 2♂1♀ 白山积迦林道 井村正行
 1979年 6月24日 3♂3♀ 白山积迦林道 井村正行
53. ミヤマクロハナカミキリ Anoploderomorpha excarata BATES
 白山のブナ帯に分布し、6月～7月に各種の花より採集される。個体数も
 多い。
 1979年 6月24日 1♂2♀ 白山积迦林道 井村正行
54. ルリハナカミキリ Anoploderomorpha cyanea GEBLER
 白山のブナ帯～亜高山帯に分布し、6月～8月に各種花より採集される。
 個体数は比較的少ない。
 1979年 6月24日 2♂1♀ 白山积迦林道 井村正行
55. ヒメアカハナカミキリ Brachyleptura pyrrha BATES
 白山ブナ帯において、7月～8月にノリウツギ、シシウド等の花及びブナ
 の立枯木にいたものが採集されている。個体数はやや少なく、ブナの立枯で
 は産卵行動も見られる。
 1980年 8月 3日 1♂ 白山大杉谷林道 井村正行
56. ツヤケシハナカミキリ Anastrangalia scotodes scotodes BATES
 県下の平地～ブナ帯に広く分布し、5月～7月にかけて各種の花より採集
 される。平地～低山にはホストとなるクロマツ、アカマツが多い為か採集例
 が多く、高地では比較的少ない。
 1986年 6月 2日 多数 金沢市別所 井村正行
 1986年 6月29日 1♀ 金沢市国見山 井村正行
57. アカハナカミキリ Corymbia succedanea LEWIS
 平地～ブナ帯上部にかけて、7月～8月に各種の花や飛翔中のものが採集
 されているが、個体数は多くない。
 1982年 8月 3日 1♂ 小松市動山 澤田 博
 1970年 8月17日 2exs 白山別当出合 松井正人

58. クロハナカミキリ Leptura aethiops PODA
白山の亜高山帯で目撃したと聞すが、筆者はまだ確認していない。
59. ムネアカクロハナカミキリ Leptura dimorpha BATES
平地～亜高山帯に広く分布する。5月～7月に標高を追って現れ、各種花より採集される。個体数も少なくない。
1968年 5月26日 1♂2♀ 金沢市俵 澤田 博
1985年 6月15日 1♂1♀ 白峰村風嵐 井村正行
60. ヤツボシハナカミキリ Leptura arcuata mimica BATES
平地～亜高山帯に広く分布する。4月～8月に標高を追って出現し、各種花や広葉樹の伐採木等集まる。個体数も多い。ブナ科やカバノキ科より羽化している。
1979年 6月28日 1♀ 加賀市吉崎 井村正行
1981年 7月 5日 1♀ 白山大杉谷林道 井村正行
61. キモンハナカミキリ Leptura duodecimguttata FABRICIUS
採集例があるようだが、筆者は確認していない。
62. ハネビロハナカミキリ Leptura latipennis MATSUSHITA
低山～ブナ帯に広く分布し、6月～8月に広葉樹の伐採木より採集される。個体数も比較的多い。
1979年 6月 3日 1♀ 白山釈迦林道 井村正行
1985年 6月23日 1♀ 金沢市角間 井村正行
63. ヨツスジハナカミキリ Leptura ochraceofasciata MOTSCHUSKY
低山帯～ブナ帯に広く分布し、6月～8月に広葉樹の伐採木や各種の花より採集される。個体数も多い。輪島市内で、アカマツの樹皮下より多くの本種の死がいを見たこともある。
1980年 8月 3日 1♂ 白山大杉谷林道 井村正行
1984年 8月18日 1♀ 白山釈迦林道 井村正行
64. コヨツスジハナカミキリ Leptura subtilis BATES
白山ブナ帯で6月～8月に、ブナの立枯木に産卵中の雌やノリウツギなどの花に訪れているものが採集されているが個体数は少ない。
1978年 8月28日 1♀ 白山釈迦林道 井村正行
65. フタスジハナカミキリ Leptura vicaria vicaria BATES
白山ブナ帯で7月～8月に、ノリウツギ、シシウド等の花に集まる。ヒメコマツの伐採木に飛来していたものを観察している。個体数は少ない。
1980年 8月18日 1♂ 白山大杉谷林道 井村正行

66. カタキハナカミキリ Leptura femoralis MOTSCHUSKY
 ブナ帯に分布し、白山では各種の花より6月～7月に採集される。個体数も多い。
 1980年 6月22日 1♂ 白山釈迦林道 井村正行
 1981年 7月17日 1♀ 白山釈迦林道 井村正行
67. オオヨツスジハナカミキリ Leptura regalis BATES
 県南部の山地で採集されたと聞くが筆者はまだ確認していない。
68. クロオオハナカミキリ(セアカハナカミキリ) Leptura thoracica CREUTZER
 白山のブナ帯で6月～8月に広葉樹の立枯木に集まる。特にブナの立枯木には多くの本種を見る事ができ、雌の産卵行動や交尾なども見られる。個体数は比較的多い。
 1980年 8月 3日 2♀ 白山釈迦林道 井村正行
 1980年 8月18日 5♂1♀ 白山大杉谷林道 井村正行
69. カエデノヘリグロハナカミキリ Eustrangalis distenioides BATES
 白山のブナ帯で5月下旬～6月にカエデの花等で採集されるが、個体数は少ない。
 1980年 5月25日 7♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 1981年 6月 7日 1♂ 吉野谷村中宮蛇谷 野中 勝
70. ヒゲジロハナカミキリ Japanotrangalia dentatipennis PIC
 白山のブナ帯で7月～8月にノリウツギ、シシウド等の花より採集され、個体数も多い。
 1980年 7月25日 1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 1980年 8月10日 3♂ 白山大杉谷林道 井村正行
71. アオバホソハナカミキリ Strangalomorpha tenuis SOLSKY
 平地～亜高山帯に広く分布し、5月～8月にかけて各種の花より採集され、個体数も多い。
 1979年 6月24日 3♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 1985年 6月 8日 1♂ 金沢市国見山 井村正行

白峰村でギフチョウの発生地を確認

松 井 正 人

これまで白峰村からはギフチョウの記録は無く、近辺の記録としても尾口村白抜山(1)、小松市丸山(2)が知られているに過ぎなかった。ところが昨年(1985年)竹谷宏二氏によって、白峰村堂の森にて本種成虫が目撃され、今年に

入って堂の森付近を調査したところ、2箇所から本種の発生を確認することが出来た。

★白峰村堂の森(標高660m)

5月10日の調査では、日当たりの良い所の雪は解けていたが、林内には厚く雪が残っていた。6月1日はさすがに雪は無くなっていたものの、せっかく捜し出したヒメカンアオイの新葉は全く伸びていなかった。やむ無く越冬葉を丹念に捜したところ、1枚の葉裏より2卵塊(13,16卵)29卵を確認した。4時間程捜したが、これ以外に発見は出来なかった。

このカンアオイは、金沢市周辺に見られるようにベターと一面に有るのでは無く、広い範囲に1m×1m位の群状でポツポツと見られた。

1986年6月1日 白峰村堂の森 29卵確認 ヒメカンアオイ 松井正人

★白峰村白峰(標高560m)

堂の森の調査で勢いを得、調査地を移したところ、直ぐにヒメカンアオイが見付かった。このカンアオイは堂の森とは違い、金沢市周辺に見られるように辺り一帯に広く見られた。また堂の森よりはるかに雪解けが早いのか、どの株も新葉が伸びて開いていた。短時間の内に、新葉の裏に産み付けられた8卵塊(2,4,5,5,5,6,9,9卵)45卵を確認した。この中には黒ずんで、今にもフ化しそうな卵塊もあった。また、調査を終えてひきあげる時には、母蝶と思われる1雌も確認した。

1986年6月1日 白峰村白峰 1雌45卵確認 ヒメカンアオイ 松井正人

(1)松井正人(1980) 翔 17 p.1

(2)松井正人(未発表) 1984年6月2日 8卵

室戸岬のヤクシマルリシジミ

松井正人

11月11日寝心地の悪い車の中で3度目の朝を迎えた。まずいラーメンをズルズルとかき込み、室戸岬まで車を飛ばす。7時の岬はまだ寂しく、おみやげ屋も閉まっていた。ヤクシマルリシジミを捜して岬付近をウロウロしているとやたらとイバラが目につき、石コロだらけの海岸にもベターっとイバラがはっていたが、まだ寒いせいか蝶は一匹も飛んでいなかった。成虫がだめなら卵か幼虫でも捜そうと思い、駐車場脇のイバラを調べてみると、「あった、あった」卵が付いている。ところが穴が空いていてどうもフ化殻らしい。それならばと幼虫を捜してみたが幼虫は全然見付からず、フ化殻ばかりがポツポツと見付かった。こんな事では成虫が飛び出すまで間が持たないので、陽が高くなって成虫が飛び出すまでカンアオイでも捜す事にした。

この辺りで標高をかせぐには室戸スカイラインしか無い。しかし観光地のスカイラインは観光バスがバンバン走り、何処とは無しに観光客の目が光ってい

るようで、おまけに地図には有料道路と記されていたので山の中へ簡単に入れないような気がして、二の足を踏んでいた。しかし結局のところこの道しか無く、走るだけは走ってみる事にした。ところがなんと無料化されていて、シーズンがズレているのが人気が無いのか観光客は全くいない、いるのは暇つぶしのおばさんとスーパーカブに乗ったイモ掘りのおじさんだけだった。しかしスカイラインだけあってたいそう景色の良い道で、景色に見とれて数度スカイラインを往復してしまった。カンアオイの有りそうな所で車を止め、意気込んで林の中へ入ってみると、あろうことか数歩と歩かないうちにカンアオイにぶつかった。なんとも拍子抜けした感じだが、間違いなくトサノアオイだ。この辺りには多いのかと、付近一帯を調べてみたが、車を止めた直ぐ横の10×5m位の範囲にしかなかった。なんとラッキーなことか。カンアオイはこんな訳でいつも簡単に見付かったので、陽が高くなるまで、展望台へ登ったり、お寺参り(四国24番札所)をして暇をつぶした。

陽も昇り暑くなってきたので岬へ戻って海岸へ出てみると、イバラの回りに何やらシジミが飛んでいる。すくってみるとヤクルリの雌で、あっちにもこっちにも飛んでいた。中に産卵しているようなのがいたので、飛び去った後を裏返して見ると、綺麗な卵がポチッと付いていた。どうもヤクルリは海岸に多いらしい。成虫はけっこうボロが多かったので、成虫採集は程々にして採卵をする事にした。トゲに刺されながらも何とか20卵程採卵し、成虫も10頭程採ったので、シルビアシジミでもないかと捜してみたが、ヤマトシジミばかりだった。カンアオイとヤクルリで満足したせいか、シルビアにはあまり力が入らず、午前中一杯で室戸岬での採集は止めてしまった。

クロコノマの幼虫は、途中のいそうな所で捜そうと思って車を走らせたが、いったん海岸道路を走りだすとなかなか良さそうなポイントも見付からずついそのまま走ってしまい、結局何処へも寄らず16時には徳島県牟岐まで来てしまった。ここまで来て未練がましく採集の事を考えるのもいやなので、あっさり採集はここで打ち止めにしてしまった。牟岐で田舎風銭湯にのんびり入り、駅前食堂でリッチな食事をし、その夜のうちに徳島市まで走った。四国最後の夜は有料の眉山パークウェイを走り、頂上で抜群の夜景をさかんに最後のアルコールに酔い痴れた。翌日は薄ら寒い中、うすらぼんやりした日の出を眺め、最後のアルファ米を食べた。荷物をまとめ、宅急便で送り返し、11時には高速船に乗っていた。11月8日から始まった4泊5日の四国大採集行はここに終わったのである。

最後になりましたが、今回の採集行に際し文献面で大変お世話になった、近藤征四郎氏、松田俊郎氏に厚くお礼申し上げます。

追記 持ち帰ったヤクルリの卵はフ化率が悪く、半分以上はへこんでフ化しなかった。フ化したものは順調に成育したが、餌不足による共食いと衰弱から、翌2月27日に最後の1幼が死に、羽化するものは無かった。

会員の動き・しゃばの動き

★ギフチョウの交尾写真を撮ると意気込んでいた小幡氏、天候不順からギフチョウの適期を逸し、気にいった写真が撮れなかったらしい。いま新たに目標をオオムラサキに設定し張り切っている、誰か情報の提供を。

★蝶談会は現在次の同好会と会誌交換をしています。読みたい方は金子先生まで連絡してください。

グループ多摩虫:多摩虫

山陰むしの会:すかしば

飛驒むしの会:とびむし

松本むしの会:まつむし

越佐昆虫同好会:越佐昆虫同好会会報

岐阜昆虫同好会:だんだらちょう

★ちょっと前の話だが、金子氏が自宅近くのガケにトラップをしかけたところ、マヤサン、ヤコン、オオオサと共に、イワワキオサが入っていたとか。これが何と石川県初。オサ屋のおじさん達、さあどうする！

★6月1日松井氏、白峰村でギフチョウの発生地を発見。ヒメカンアオイの新葉がまだ出ていなく、旧葉に産卵していたらしい。

★6月4日虫供養と銘打って、城南亭にて酒宴を開く。「線香を上げない供養なんて・・・」との声も聞かれたが、おなかの虫ぐらいの供養にはなったはず。

★6月8日松井氏ついにホンチャバネセセリを採幼。去年1年間は全くポーズだったので、すぐさま祝杯を上げた事は言うまでも無い。

★3月までは、金曜土曜の夜ともなると必ず鳴り響いていた中西宅の電話君、最近どうしたことか全く鳴りひそめているらしい。最初はホッとしていた中西氏も、最近何か物足りなく、何だか採集にも熱が入らない様子。金曜土曜の夜はジャンジャン電話して、中西氏を元気づけてあげよう。

★6月10～13日吉村氏、北海道へ修学旅行。もち論生徒の付き添いだ、こっそり網を持って行ったものの、自由時間が無くてほとんど使わなかったらしい。もったいない話。

★6月12日百万石祭りの一貫として浅の川で燈籠流しが行なわれたが、燈籠に蝶が舞っていたような気がする。野村友禅斎の手に因るものなのだろうか。

★6月13日松井氏の所でオオチャイロハナムグリが元気に羽化。ところがあの有名な臭いがしないらしい。

★6月14日百万石行列を横目に見ながらのんびり散歩をしていた澤田氏、厚生年金会館辺りでコムラサキを目撃。どうも街路樹で発生しているらしいとのこと。誰か確認して下さい。

★6月15日ミスジチョウを求めて白山方面へ向かった5人の男達、敢え無く敗退。大雪の影響かまだ時期が早かったらしい。わずかにキバネ、アオバの両セセリが花を添えたとか。敗退者のK、M、N、T、Yとはいったい誰か。

★6月18日米沢の横山氏よりTELあり。

「キマルリ確実に10コ採れませえ、会津若松にきたってやあ」とのこと。

★6月22日オオチャイロハナムグリを掘らんと、夜駆けして釈迦道へ入った松井、中西のツルハシ隊。アカアシクワガタ、カブトムシを多数掘り出したものの、オオチャイロはらしい若令を1コ掘り出したにとどまった。

★6月22日吉村氏、メスグロヒョウモンを採らんと富来町高爪山へ出掛けたが、ミドリ、クモガタ、ウラギンの大群に圧倒されて帰って来た。

★最近オサ屋の澤田氏に全く動きがみられず、電話の声にも元気が無い。冬期に張り切りすぎた疲れがドッと出たのか、またまた冬眠にでも入ったのだろうか。そのためかどうか中西氏もいまいち元気が無い。

★6月28日医王山嵯峨井ポイントに集結した吉村連合。5本のネットを乱舞させ、次から次へとゼフを採る手はずだったが、いち早く危険を察知したのか、ゼフはほとんど姿を見せなかった。

★6月28日金子氏、氏最後のキシタバ、カバフを求めて兵庫県まで遠征したものの、大雨にたたられヒロオビ2頭で帰ってきた。

★田辺氏、6月より新居に引っ越し、親子3人水入らずで暮らしているらしい。親父の部屋(虫の部屋)もしっかり確保したらしく、「これからはガンガン撮れるぞ」と意気込んでいる。新住所は内灘町旭ヶ丘30-1 TEL37-7369と前の家の直ぐ近所。一度見学に行くといい

★最近はちょっとした特集号ブームで、我が蝶談会でもウハウハ喜んでいるのがいるそうです。そこで問題です。いったい誰が何を喜んでいるのでしょうか。下の右群と左群を線で結びなさい。

甲虫特集(とっくりばち) ・勝海雅夫
オオクワガタ特集(むし) ・中西重雄
オサムシ特集(オサマップ) ・松井正人
キマダラルリ特集(蝶研) ・田中秀夫
クロコノマ特集(駿昆) ・吉村久貴

★セントルイスの野中氏、連日地獄の様な暑さにゆだっていたが、6月末に一週間もの休みを取り、テネシーの東の何とか言う山まで虫採りに行ったらしい。昼はオオウラギンも真っ青な巨大ピカピカヒョウモンや、木間を飛び交うオオヒカゲみたいなヒョウモン、日本のとよく似ているがちょっと違うハナカミキリ各種を採り、夜は夜で月がすこぶる明るいにもかかわらず、山小屋のベランダで燈火採集を試み、カトカラや種々のカミキリを採ったらしい。おまけにオサムシトラップもしっかりかけたらしいが、オサムシは全くかからず、ゴミムシが少々採れただけにとどまったらしい。これら成果は、近日中にも中西氏宅に送られてくるそうです。おたのしみに!!

★白山でギンボシヒョウモン採集さる。これまで執拗に捜しても目撃すら無いのに、なんと1979年に採集されていた。蝶研フィールド7月号(NO.4)によれば1979年7月8日尾口村岩間温泉に於いて山岡万寿夫氏1♂採集となっている。チョウ屋のおにいさん、さあどうするね! 尚同号には中宮温泉のヒメシジミ(1977年7月6日1♂三上秀彦)も載っている。

★新築準備で忙しい野村氏、現在アパートに仮住まい中。旧居は7月いっぱい取り壊し、新居は8月より基礎工事にかかるらしい。なんでも鉄筋4階建て、基礎杭を地下10mの安定層まで打ち込むとかで、入居は11月中頃になる見込み。尚アパートの電話は旧居から持ってきたので52-5808と前と同じ。

★7月13日井村氏、長野県川上村まで足を伸ばしたらしいが、折からの豪雨とガケ崩れから安房峠が閉鎖されてしまい、平湯から高山、木曾経由で、川上村まで行ったらしい。ところが時期外れか全くのスカだったらしい。

★★ 新 刊 書 案 内 ★★
1) 蝶の入門百科 岡田朝雄・松香宏隆著(A5版・朝日出版社 2300円)

蝶の採集、飼育、撮影の具体的な方法から標本の作り方で載っている。資料として雑誌、学会紙、同好会等の名前まで載っているが百万石蝶談会の名は無い。嵯峨井氏も持っている。

2) 台湾産蝶類生態図鑑 浜野栄次写真・著(菊倍版変型・講談社 45000円)

講談社の昆虫豪華本シリーズ。台湾産蝶類 349種がオールカラー原寸大で示され、生態写真は171種について提示されている。その他、異常型、雌雄型等の未発表資料も多数あり、標本図鑑と生態図鑑を兼ね備えている。

3)  「エゾシロチョウ」朝比奈美三写真・文(A5判・北海道大学図書刊行会・一四〇〇円)
日本では北海道だけにすむ、翅をひろげるとヒセンチ以上もある美しいチョウ。その一年間の生活を季節を追ってとらえている。

エゾシロチョウ

4) ▶「高山蝶——山とチョウと私」渡辺康之著(四六判・築地書館・二〇〇〇円)
日本にすむ高山蝶・三種について、分類や分布に重点を置いて記述している。厳寒の大雪山に越冬状態の高山蝶を調査するなど、著者のなみなならぬ情熱が、抑えられた文章ににじみている。



例 会 の 記 録

6月6日(金)城南管工KK2Fにて8時より開催したが、9時半頃になってようやく会員が集まりだした。最近新入会員がやたらと多いので、またまた自己紹介から始まる。今回吉村先生と同じ学校の中藤先生が仲間入りをした。会合は例によってテーマが無く、ツクダニオサムシやカレイビレイチョウの差し入れが飛び回る中、賑やかに行なわれた。いくつかの声を拾ってみると、「北陸の虫屋は恵まれてんだよね」「なんちゅうたかてあんた、あの飛んどうの奴を採るワクワクするあの一瞬やわいね」「カメラはいつ逃げるか分からないあの緊張感がたまらない」「エゾカタビロは2ヶタ採りますよ」「去年オオイチモンジをたくさん見てから、今年は採りにいくよ」「白山のゴマシジミはぜひ御一緒させて下さい」「自然破壊で一番悲しむのは虫屋なんだよね」となかなかおもしろい。

閉会は今回も0時で、出席者は、井村、井沢、竹谷、高平、中藤、中西、山岸、山口、吉田、吉村、松井夫妻の12名でした。

とぶ	NO.58 1986年8月1日発行
編集	松井正人
発行	百万石蝶談会
事務局	金沢市大場町東871の15 松井方
	☎920-01 ☎0762-58-2727